

米国で関心が高まるプラグインハイブリッドカーへの改造ビジネス

平成 21 年 1 月 1 日

愛知県サンフランシスコ産業情報センター

駐在員 杉本安信

落ち着きを見せるガソリン価格ですが、ここ数ヶ月の価格の大幅な変動は、米国でもハイブリッド車などのより燃費の良い車への関心を高めるものとなりました。そうした中で、自動車所有者の中には、燃費効率をさらに良くすることを目的に車を改造する人たちも現れました。愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいても、このほどそうした改造ビジネスを行うハイブリッド車専門のメンテナンス工場をサンフランシスコ市内で訪ねてみましたのでご紹介します。

<プリウスを家庭で充電できるプラグインハイブリッド車に>

1997 年に市販が開始されたハイブリッドカーのプリウスは、内燃機関と電動機を組み合わせ合わせてガソリンと電気でする燃費の良い車として、現在、米国でも大変人気があります。ハイブリッドカーは走行中のエネルギーを電気に変えてそれを使用することでガソリン消費量を抑え、低燃費を実現していますが、走っていない時には充電しないため、その分はガソリンの使用に頼ることになります。プラグインハイブリッドカーは、家庭用電源からコードを使って充電しておくことで、ガソリン消費量をより少なくすることができ、現在、主要自動車メーカーにおいても研究開発が進められており、その商品化が期待されています。

そうした中で、米国でハイブリッドカーをプラグインハイブリッドカーに改造するビジネスをすでに行っているのが、Luscious Garage (ラシャス・ガレージ) 社です。同社は、ハイブリッド車専門のメンテナンス会社として 2007 年夏に設立されましたが、低燃費車の人気の高まりを受け、この改造ビジネスを始めました。オーナーのキャロライン・コキレット氏によれば、普段のハイブリッド車の修理業務に比べると、割合としては依然少ないものの、すでに 30 台のプリウスをプラグインハイブリッドカーに改造してきたとのこと。

改造作業では、新たな高性能蓄電池を既存の蓄電池の横(後部側)に並べて配置させますが、1 回のチャージで約 15 マイル (約 23km) までは電気で走行し、それ以上は元のハイブリッドの仕組みに戻って走行します。電気だけで走れる距離は決して長くありませんが、その間はガソリンを消費しないので、同社も多くの依頼主が普段は短距離移動にしか使わない方々とみえています。

一台あたりの改造費は車によって異なるようですが、プリウスだと 6,000~15,000 ド



蓄電池を追加搭載されたプリウス



リアバンパーに設けられた充電口

ル（12月5日現在1ドル92.87円の換算で約56万円～140万円）くらいとのことですので、通常、費用分をガソリン代で取り戻すにはかなりの年月が必要と見込まれます。コキレット氏は、こうした改造の依頼主は、もともと技術に詳しい、環境問題に関心が高い、あるいは、ガソリン代を減らしたい、といった要因が重なった人が多いと説明してくれました。ガソリン価格が大幅に下落してきた最近は、依頼も減っているとのことですが、長期的にはプラグインハイブリッドカーのニーズは高まるとの見込みから、同社ではすでに市内の他の場所にこの改造を専門に行う工場をオープンしたとのことでした。

心配されるのが、改造に伴う自動車メーカーの保証ですが、コキレット氏からは、システムが簡易であり、概して他の部分に影響を与えないので改造が問題になるような故障はこれまで発生していないとの説明がありました。また、ラシャス・ガレージ社の保証は30日、搭載する蓄電池など改造部品の供給会社も他の保証を用意しているとのことでした。

<広がりを見せる低燃費車への改造>

サンフランシスコ市内には、ハイブリッド車を改造する事業を行う会社が他にも2～3社あるようですが、こうした低燃費車への改造ビジネスは、米国内でも様々な形で広がりを見せています。

例えば、ロサンゼルス市近郊の Solar Electrical Vehicles（ソーラー・エレクトリカル・ビーイクル）社は、1984年に太陽エネルギーで走る車を開発したのを皮切りに、2005年にはプリウスの屋根に太陽エネルギー・パネルを取り付けた車を開発し、注目されています。

また、有名なロック歌手のニール・ヤング氏は、ガソリン車を代替燃料で走行する車に改造する Linc Volt Technology（リンク・ボルト・テクノロジー）という会社の経営を通じて、ガソリン消費量の少ない車の利用を呼びかけています。ニール・ヤング氏自身、1959年式のリンカーン・コンチネンタルを電気と天然ガスで走る車に、他の2台を使用済の植物油で走る車に改造したと報道されています。

<注目される今後の改造ビジネス>

ラシャス・ガレージ社は、現在、電気自動車の所有者やそうした技術に関心のある人々の集まりである電気自動車協会のサンフランシスコ支部活動に参加しているとのことでした。ラシャス・ガレージ社では、プラグインハイブリッドカーへの改造ビジネスはまだまだ利益を出すまでには至っていないものの、来たるプラグインハイブリッドカーの時代にはよいビジネスになると見込んでおり、いまの改造ビジネスは自社のPRや顧客基盤を築くのに役立っているとのことでした。

米国ではいよいよ公道を走り始めたプラグインハイブリッドカーですが、蓄電池の部品会社やメンテナンス会社のほかに、街中での充電設備の設置をビジネスにする企業も現れてきています。

ますます関心高まるこのプラグインハイブリッドカー関連ビジネスについて、愛知県サンフランシスコ産業情報センターとしても今後も注目していきたいと思えます。